

合吟コンクールの結果が発表されて表彰が行われた後、会場の全員で「吟剣詩舞道讃歌」を大合吟。翌年度の開催地、倉敷での再会を誓って幕を閉じた

高松宮妃癌研究基金奉賛 * supported by THE NIPPON FOUNDATION
第53回全国吟剣詩舞道大会
主催：公益財団法人 日本吟剣詩舞道協会 後援：文化庁・千葉県・公益財団法人日本財団・NHK



50回大会までの日本武道館、その後の国技館、北とびあに変わって会場となった市川市文化会館。大ホールは1758人収容



「令和五年度(第三十七回)吟剣詩舞大賞 功労賞受賞者」。左から小林北鵬、白井寛洲、山田静将、川原霊宗、笠井栄俊各氏



免状を授与され、晴れて第四十四期少壮吟士となった4人。左から野上吟鴻、西岡緑優、榮岳蓉、恒成光熙子各少壮吟士

熊本で名流大会が開催されてから3週間後、千葉縣市川市にて吟剣詩舞界最大のイベント、「第53回全国吟剣詩舞道大会」が開催されました。前年度に人数を縮小して実施された合吟コンクールも開催。名流大会と分けて行われたコンクール優勝者の披露や、幼少年および開催地代表推薦吟剣詩舞、そして全国八地区連絡協議会による企画番組集など、多彩かつ華やかな舞台を展開。コロナ禍から解放されて大ホールを埋めた吟剣詩舞愛好者を沸かせ、最後は4年ぶりに「吟剣詩舞道讃歌」が高らかに響きわたりました。

日本財団助成事業

高松宮妃癌研究基金奉賛

第53回全国吟剣詩舞道大会

師走の千葉に高らかに響く

吟剣詩舞道讃歌

日時：令和5年12月10日(日)
 場所：千葉県、市川市文化会館 大ホール
 主催：公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会
 後援：文化庁 千葉県、日本財団、NHK

優勝 東京都吟剣詩舞道総連盟 男子(東京) 吟題:『春日山懐古』(大槻磐溪)



「まさか優勝できるとは思ってなかったのすごくびっくりしています。皆さん個人のコンクールで良い成績を出されている方ばかりですが、同じ流派の人はいません。私は東日本大会で優勝したので先導を任せられました。月1回、計6回集まって練習しました。先導が終わった後の入りと、転句のところで合わせることに注意しましたが、今日は並んだ時からの意気込みが皆さん違って、気持ちが一ひとつになった結果、優勝できたと思います」(小池洵風)

2位 契秀流吟詠会 女子(神奈川) 吟題:『事に感ず』(于漬)

「優勝してしまうと来年出られないし放心状態になってしまうと思い、2位を狙っていました(笑)。心をひとつにして、ひとつの声に聞こえるようにカウントし練習しましたのが功を奏したと思っています。来年は優勝を狙います(笑)」(小倉契秀)。「先導をしましたが、皆様の次の言葉がすぐにしっかり入れるように、語尾をしっかり止めることに気がつけました。最後は気持ちだけで臨みました」(吉澤蝶心)



3位 香川県吟剣詩舞道総連盟 男子(香川) 吟題:『涼州詞』(王翰)

「3位に入れて夢のようです。11人が臥風流で、他の4人はそれぞれ別の流派です。全国コンクールの一般三部で優勝した草薙(賢風)さんもいらしたので心強かったです。私は哲泉流で『涼州詞』は(先導を務めた)私を選びましたが、臥風流の徳田寿風先生にもご指導いただき、その節調を学びました。声の出し方などよく合っていたところが3位に入れた要因かと思えます」(大島需泉)



東京都吟剣詩舞道総連盟毛塚静精理事長を交えて喜びを表す優勝メンバーたち

【全国吟詠合吟コンクール】
**15前年度の11人から
15前年度の11人から
15前年度の11人から
15前年度の11人から**
第51回大会までは二列に並んで35人で実施されてきた合吟コンクール。コロナ対策として令和3年1月に実施された「飛沫飛散状況検証」の結果を受けて、前年度は二列11人で行われました。今大会では二列ながら15人に増加。全国から男子21、女子24の計45団体が出場し、3位までの特別入賞と25位までの入賞を目指して鎬を削りました。

【幼少年代表・開催地代表推薦吟剣詩舞】

東日本の幼少年と千葉県総連が奮戦



左：『偶成』（朱熹）吟：阿部楓生 舞：田口紀耕、五月女昴、五月女空＝吟詠は阿部兄妹のお兄さん楓生君が発熱のため欠場。楓生さんは「（一人だけになって）緊張した」と言いつつも詠い切った。五月女凱昂さんの次男・空君は今年デビュー
右：『白虎隊』（佐原盛純）吟：辻和樹、辻実樹 舞：小野優月、小野陽葵、小野咲燈＝岳精流・横山龍精宗嗣の娘である辻和樹・実樹姉妹と、栃木の遊月流で剣詩舞を学ぶ小野優月・陽葵・咲燈三兄妹のコーポ。白虎隊の悲劇を見事に表現

千葉県吟剣詩舞道総連盟 石井桃苑理事長

チャンス을 いただけ 感謝 しています



「千葉県でこうして全員で出られるチャンス을 いただいたことに本当に感謝しておりますし、皆さんと気持ちよくできたとすごく喜んでます。千葉県の佐原市出身の漢詩人ということで、本宮三香先生の作品を二題選び、『四海波』を女性、『九段の桜』を男性の会長や理事でやらせていただきました。あとの二題は合吟コンクールにも出た会員の方たちがたくさん出場され、本当に良い経験をさせていただきました」

幼少年代表として出場したのは、東日本地区連絡協議会の22人。上記の二題のほか、森内桜月子さんと藤原桜山さんの吟、六本木高校吟詠剣詩舞同好会の舞で『富士山』（石川丈山）を披露しました。開催地代表は千葉県吟剣詩舞道総連盟で、総勢130人ほどが会場。千葉県出身の漢詩人、本宮三香作の『四海波』『九段の桜』のほか、杜牧の『赤壁』、李白の『早に白帝城を発す』を迫力ある吟と舞で表現しました。



『早に白帝城を発す』（李白）吟と舞：石井桃苑理事長はじめ千葉県吟剣詩舞道総連盟の吟士61名と舞手5名＝石井桃苑理事長は『四海波』に続いて二題で出演。合吟コンクールに出場した各派会員の合同チームのため、着物も多彩

【全国コンクール優勝者の披露】

令和四年度と五年度の優勝者が出演

令和四年度と令和五年度の全国吟詠および全国剣詩舞コンクール優勝者の披露。熊本での名流大会とどちらか行けるほうに出場するという形で行われました。今大会では令和四年度の吟詠2人、剣詩舞6人、令和五年度の吟詠5人、剣詩舞11人が出場。剣詩舞幼年の部の鈴木嗣人君は名流大会で前年度の剣舞、今大会で今年度の詩舞と分けて出場。剣詩舞一般二部の鈴木一人さんは今大会で二部門に出場しました。



剣詩舞一般二部の鈴木一人さんは、令和四年度の剣舞優勝で『中庸』を披露(右)、その後衣装を替えて令和五年度の詩舞優勝で『辞世』を披露した(左)

八地区区連協が趣向を凝らした構成番組

全国吟剣詩舞道大会では、例年は全編通しでの企画構成番組が作られますが、今回は全国八地区連絡協議会がそれぞれテーマを持って番組を作りしました。地区によって演目の数や出場人数は違いますが、全国高校総合文化祭のように、地区ごとに趣向を凝らした舞台となりました。紹介する五地区以外では、北海道地区連協が一題、東北地区連協が「福島巡遊」として四題、近畿地区連協が四題披露しました。

企画番組のトップに東日本の3人の女性少壮吟士が登場



(写真左)林煌彩「トップということで責任もありすごい緊張しましたが、この3人ではじめてやれて思い出に残る舞台になりました」。(写真中)星野紫栄「プレッシャーはありましたが仲間意識を持って気持ちよく吟じさせていただきました」。(写真右)西岡緑優「本日少壮吟士に認定されて今回初めて出演させていただき、いろんなお話をさせていただくなかで本当に勉強になりました。ありがとうございます」

〈東日本地区連絡協議会〉「夢幻の輝」



上：『容奇』(新井白石)＝上記の女性少壮吟士3人の吟により、星野紫栄少壮吟士のお姉さんである星野洲虹会長以下紫虹流の舞手6人が雪の美しさを表現

左：『本能寺』(頼山陽)＝石川春海、大山宗龍、野上吟鴻の男性少壮吟士3人の吟と、スーパーチームの五月女凱昂メンバーなど3人の舞で本能寺の変を描く

〈中国地区連絡協議会〉「中国五県旅路はるか」



『烏城』(藤上南山)＝烏城は岡山城の別名。岡山を本拠とする菊水流の藤上南山家元作の漢詩を河田臈泉少壮吟士OBが吟じ、菊水流の5人が舞う

〈九州地区連絡協議会〉「月」



『月夜荒城の曲を聞く』(水野豊州)＝「月」をテーマにした四題の最後。九州地区の女性少壮吟士7人と河野鶴聲、藤本誠堂吟士が、間に『荒城の月』をはさんで情感豊かに吟じ、歌う

〈四国地区連絡協議会〉「空海の道」



『後夜仏法僧鳥を聞く』（空海）=弘法大師として知られる空海の足跡を辿る四国の旅。臥風流ほか吟士全員と、川原霊宗宗家はじめ水心黎明流の14人の舞

〈中部地区連絡協議会〉「龍 煌めく」



『坂本龍馬を思う』（河野天籟）=金龍、龍馬、神龍、蒼龍という四つの龍を吟と舞で表現。上岡暁壮宗家をはじめ上岡ファミリーと堀木咲明が龍馬を思っで舞う



『富士山』（石川丈山）=中部というより日本を代表する霊峰富士を讃えた名詩を、塩澤宗鳳少壮吟士の吟と見城星舟・星梅月母娘など星舟流8人の舞で表現



中部地区連協のフィナーレは、日本壮心流の入倉昭星宗家が音頭をとって『燃えよドラゴンズ』の大合唱。辰年でのドラゴンズの優勝を誓って幕となった